

左京民主商工会 第68回定期総会方針 2022年12月11日

一、開催にあたって

新型コロナウイルス感染症の世界
的な流行が始まり3年が経過しよ
うとしている。また、政府の円安政
策による物価高によって、多くの事
業者の生業と暮らしが危機的状況
に陥っている。今こそ政府にしっかり
とした対策を求めていく時期であ
る。

こうした情勢の中で、第六十八
回定期総会を迎えた。左京民商は、
民商・全商連運動の理念(①民商
運動は、会員の利益・幸せだけでな
く、中小業者全体、大きくは国民全
体の幸福とつながっている。②団結
こそ何ものにも勝る宝である。自
らが大きく団結したときこそ、中
小業者の切実な要求を実現するこ
とができる。③中小業者は、共通す
る要求で、労働者、農民などの国民
各層と、ともにたたかっつらば、そ
の要求実現の道をさらに大きく切
り開くことができる。)に基づいて
運動を進めてきた。

二、政治・経済の情勢

長引くコロナ禍に対する支援策
が国や行政で打ち出された。国に
よる事業者への直接支援は持続化
給付金→一時支援金→月次支援
金→事業復活支援金と、続けられ
てきたが今年の3月分まで打ち切ら
れている。京都市や府による支援は、
国直轄のものを除けば直接支援は
無く、経費に対する補助金が数回
出されてきた。直近の京都市総合
支援補助金では、家賃や公共料金
などの固定費も補助の対象になる
という画期的なものとなった。事業
者への支援は先細る一方であるが
コロナ禍は続いている。売上がコロナ
前と比べると大幅に減少した状態
が続いている事業者も少なくない。
今後は、据え置き期間が終了し融

資の返済が始まる事業者が多くな
り、返済困難となる事業者が出て
くるのが予想される。こうした中
事業者の現状を把握し、適切な対
策を打っていくことが国や行政には
求められている。

三、要求実現の運動

①コロナ禍や物価高騰を乗り越え て事業継続を

かつてない経営危機の中で事業
を継続していくために支援制度の
活用支援を進めていく。それと同
時に、制度の継続と活用しやすいも
のへの改善を国や京都府・京都市に
求めていく。また、大きな負担とな
っている税と社会保険料は、減免制
度や猶予制度を知らせて活用して
いく。国保料の滞納による国保証の
取り上げを許さない取り組みと、
国保料・介護保険料の引き下げの
運動をすすめる。

②消費税減税とインボイス制度中 止の運動を

消費税率を当面5%に戻す運動
と同時にインボイス制度の導入に
反対する。インボイス制度が導入さ
れると中小業者への事務負担が大
きくなるだけでなく、年間売上一
千万円未満の免税事業者へ税負担
を強いる内容になっている。また、免
税事業者が取引から排除される可
能性もある。消費税減税の代わり
に段階的に引き下げられてきた法
人税や大企業のみしか活用できな
い減税制度を改め、適切に課税すべ
きである。また株式の配当など不
労所得に対する課税も強化すべき
である。本来、税金には負担能力の
高い人は高い率で課税し、低い人は
低い率にして、経済活動で生じた
格差を是正する役割がある。

③自主記帳・自主計算・自主申告活 動を強める

記帳を自分で行うことにより経
営状況を自ら把握することができ、
融資や補助金獲得の際などに役立
てることが出来る。今年も、パソコン、
手書きを問わず、一人ひとりに合っ

た記帳スタイルを支援していく。

④経営対策をすすめる

売上を伸ばしていくことや経営
のためのヒントが得られるような
会員同士の仕事の交流や、民商会
員の仕事と商売をインターネット
ホームページ「元気なお店」で発信
していく取り組みなど進める。ホー
ムページがいつそう経営対策に役立
つよう、内容の改善をすすめる。ま
た、会員自らがSNSなどインター
ネットを活用していきけるようサポ
ートをする。

⑤納税者の権利の確立を

納税者の権利を無視した乱暴
な税務調査が報告されている。その
中で納税者の権利を主張していく
ことを中小業者の中に広く知らせ
る運動に取り組み。今年は、会員の
中での調査は2件あった。

⑥改憲・大軍拡に反対する

7月の参議院選挙の結果から改
憲への策動が勢いを増す可能性が
ある。国政選挙が最大で3年間お
こなわれない時期となる。政府は防
衛費の大幅な増額と改憲を主張し
ている。世論調査では改憲は関心
が低く議論する時期ではないとい
う風潮が強い。そもそも憲法は国
家権力から国民の権利を守るため
に制定されている。憲法違反の法
律を制定し、まともな審議なしに
強行採決を繰り返す自民党政権
から立憲主義を取り戻すことが急
務である。

四、強大な民商を

①組織強化の活動

役員の高齢化にともない民商運
動が弱まってきた。30代、40
代の比較的若い自営業者の要求を
重視して、民商の運動への参加を働
きかける。また、会員の要求を実現
し、魅力ある民商作りには、支部役
員会、班会の開催が必要である。こ
れらが開けるように実態に合わせ
た班の再編に取り組む。

②仲間増やしの活動

この一年間、民商のチラシを配

布する宣伝や会員からの紹介で
一人の入会者を迎えることができ
た。一方で会員の高齢化と廃業、経
営困難による退会者が25人あつ
たため会員数は14人の後退とな
った。

左京区の全ての業者に民商を知
らせる宣伝活動は仲間増やしの活
動の重要な一歩である。宣伝、ビラ
の配布を工夫しておこなう。またホ
ムページやSNSで民商の活動紹
介や商売に役に立つ情報を発信し
ている。こうしたインターネットによ
る情報発信にも力を入れる。

③健全財政の確立を

この一年間では、会費の月末回
収率は昨年比で後退している。目
標は90%とする。問題点として、
今年度の目標は会員300人
(11月時点で275人)、商工新
聞読者は常に会員の150%をめ
ざす。

④青年の活動

青年業者は、自主記帳運動、経
営対策などに関心が高い。青年事
業者の要求を聞き参加しやすい取
り組みを企画して交流を深め、民
商運動の活性化をめざす。

支部・班組織の弱体化や、会員の経
営困難や民商活動への理解の不十分
による会費支払の遅れなどがある。
会費の改善のためには、支部・支部
の組織活動を定着させることが必
要である。

五、婦人・青年の活動

①婦人の活動

この一年間は、コロナ禍というこ
ともあり集会を開催できなかった。
役員会体制は確立できていない。今
年は、部員の要求を聞き取り、気軽
に集える企画を定期的に開催でき
るよう役員体制の確立を目指す。

②青年の活動

青年業者は、自主記帳運動、経
営対策などに関心が高い。青年事
業者の要求を聞き参加しやすい取
り組みを企画して交流を深め、民
商運動の活性化をめざす。

六、共済運動の前進

共済会をより充実したものにする
ために、すべての未加入の会員に
加入をすすめる。民商会員加入率8
0%の回復をめざし、(現状75%)
助け合い活動への参加をよびかけ
る。

今期の無料集団健康診断(一般
検診、婦人科検診)は、10月から
12月の期間にあすかい病院でお
こない、共済会未加入者を含め1
4人の参加者であった。

七、おわりに

この間、長引く新型コロナウイルス
感染症拡大による影響と円安政策
による未曾有の物価高が中小事業
者の営業と暮らしを襲っている。民
商はこれまで道理・団結・共同の理
念で幾多の困難を乗り越えてきた。
今こそ民商の出番の情勢である。
中小事業者の苦難解決のための運
動をすすめていく。

創意工夫を発揮してこの一年間
運動に取り組もう。

総会で選出された役員

役職	氏名	職業	支部
会長	和田 茂雄	獣医師	北白川
副会長	田中 靖雄	着物染色加工	錦林
副会長	村山 洋介	雑貨卸売業	養徳
会計	渡辺 文子	整体	錦林
事務局長	山口 真一	事務局専従	
理事	山田 恵美子	印刷	新洞・川東
理事	岸本 忠明	労働者	錦林
理事	猪倉 靖三	玩具販売	下鴨・葵
理事	山田 捷治	不動産賃貸業	三錦
理事	西川 正	ハウスクリーニング	北白川
理事	湯口 眞智子	自動車整備	養正
理事	前川 致一	左官	修学院
理事	三宅 良成	仕出し 飲食	洛北
会計監査	草野 暁	自然食品販売	北白川
会計監査	池内 弘	印刷	洛北